

学内広報

2001. 10. 11
 東京大学広報委員会

医学部附属病院で新入院棟の完成記念式典行われる



(3 ページに関連記事)

目次

| | | | |
|-----------------------|---|------------------------|----|
| 特別記事 | 2 | 本語教育集中コース・特別コース(夏学期) | |
| 経済学部長の任期を終えて | | (第32期生)の修了証授与式行われる、空 | |
| 一般ニュース | 2 | 間情報科学研究センター第4回シンポジウ | |
| 部局長の交代、退職時における永年勤続者 | | ムが開催される | |
| 表彰状の伝達式、東京大学AGS研究助成 | | 掲示板 | 14 |
| への感謝状贈呈式 | | 東京大学ハラスメント相談所の相談体制の | |
| 部局ニュース | 3 | 変更について、平成14(2002)年度工学系 | |
| 医学部附属病院で新入院棟の完成記念式 | | 研究科大学院入学試験結果について、大学 | |
| 典・祝賀会を挙げる、工学系研究科附属量子 | | 院数理科学研究科修士課程の入試について、 | |
| 相エレクトロニクス研究センターのシンポ | | 「教養学部報」第450(10月3日)号の発 | |
| ジウム・設立記念式典・祝賀会が開催され | | 行、教養学部で第93回オルガン演奏会の開 | |
| る、新領域創成科学研究科で平成13年度9 | | 催、移転のお知らせ、コンピューター・ | |
| 月期学位授与式・平成13年度10月期入学 | | ネットワーク利用セミナーのお知らせ、東 | |
| 式挙行される、2001年度留学生センター日 | | 京大学AGS研究会研究課題の募集 | |
| | | 事務連絡(人事異動) | 18 |
| | | 淡青評論「私なりの東京大学像」 | 20 |

≡ 特別記事 ≡

経済学部長の任期を終えて

前大学院経済学研究科長・経済学部長 堀内昭義

本年の9月末日に私の経済学部長（大学院経済学研究科長）の任期が終わった。正直に言って非常にほっとしている。これでまた自分の研究や教育に戻ることができると思うと、少し心も弾む。任期を満了するに当たっては個人的な感想は複雑多岐にわたるが、差し当たっては次の二つを述べることにしたい。

学部長に就任すると直ちに、他の部局の動向、総長室や本部事務局の考え方などに関する情報の収集や分析、他の部局との連携に多くのエネルギーを費やされることになった。その奔走ぶり（？）は、私がしばらく前に読んだ「江戸お留守居役の日記」（山本博文著）に活写されている地方小藩の江戸詰め家臣の活動を彷彿させるものである。情報収集、連携の行動は江戸時代も、平成の御代も殆ど変わらないし、くだらなさ（失礼！）も同程度である。学部長なんて、結局、留守居役程度の役回りなんだと痛感させられた。

もう一つの感想は、部局の行政の在り方（専門用語では、ガバナンスという）はかなりバラエティに富んでおり、その研究分野の研究のガバナンスを反映している面が強いということである。上意下達のメカニズムが徹底している部局もあれば、よく言えば民主的であるが、下克上の色彩が濃厚な部局もある。そのガバナンスの性格はその分野の研究の進め方（具体的には、効率的な研究資金の利用方法）によって規定されているというのが私の仮説である。経済学者としては、このような仮説の妥当性を追求してみるのも面白いかもしれない。

いずれにしても総長、各部局長の皆様から大変ご支援をいただきました。一応、任期を満了できたのも皆様のおかげです。記してお礼申し上げます。

≡ 一般ニュース ≡

部局長の交代

このたび、次のとおり部局長の交代があった。

| 部局名 | 新部局長 | 旧部局長 |
|-----|-------|-------|
| 大・経 | 岩井 克人 | 堀内 昭義 |

大学院経済学研究科長・経済学部長

岩井 克人（昭和22. 2. 13生）

（任期：平13. 10. 1～平15. 9. 30）

昭47. 6 大学院経済学博士課程
修了

平元. 4 教授（経済学部）

（出身地）東京都

（所属講座）

経済理論

（専門分野）

経済理論

研究内容（代表的な著書や論文等）不均衡動学，貨幣論，進化論経済学，法人論



退職時における永年勤続者表彰状の伝達式

平成13年9月30日付けで退職された鳥飼前学生部長に対する文部科学大臣表彰状及び総長表彰状の伝達式が、9月28日（金）午後12時30分から本部庁舎8階事務局長室で行われた。



▲坂本事務局長との記念写真

東京大学AGS研究助成への感謝状贈呈式

AGS研究の趣旨に賛同し、助成いただいている企業・団体に対して謝意を表するため、10月1日、佐々木総長よりの感謝状贈呈式を開催いたしました。

東京大学では地球規模での持続的発展（Sustainable Development）をめざすAGS共同研究を1996年よりマサチューセッツ工科大学（MIT）、スイス連邦工科大学と共に推進してまいり、本年スウェーデンのChalmers工科大学も参加し第2期AGS研究としてさらに共同研究の発展を図っています。第2期AGSの活動に対しては、わが国の企業4社から財政的支援と、国際諮問委員会メンバーへの就任を約束いただいております。

一方、東京大学では、上記の国際共同研究を支援し、あるいは補完する目的で、国内の多くの企業・団体の助成を受けて独自に、約100名の教員が参画する「国内AGS研究会」を設置しております。こちらも本年で節目を迎え、第2期の体制を企画しているところです。

感謝状贈呈式には、佐々木総長以下、副学長、事務局長、AGSコーディネーターなど関係者が出席し、各支援企業・団体の代表者に総長より感謝状と記念品を贈呈すると共に、AGS共同研究ならびに、東京大学の教育研究への今後一層の支援をお願いいたしました。



≡ 部局ニュース ≡

医学部附属病院で新入院棟の完成記念式典・祝賀会を挙げる

医学部附属病院（加藤進昌病院長）は、新入院棟の完成を祝い、9月20日（木）午後3時から記念式典と祝賀会を挙げるした。

記念式典では、加藤病院長が「新入院棟の特徴として、入院患者への居住性を向上を図るため、個室を増やし、特別個室を設置、すべての病室にトイレ・シャワーを設備するなど、快適な環境提供を心がけ、また、診療内容の充実を図り、教育、研究との有機的な連携を保ちつつ、大学病院としての役割を果たしていく」と決意ある式辞を述べた。

続いて、佐々木総長が「個々の患者さんに最適の医療を見出すという医学研究が、国民自らの健康と受けるべき医療を自律的に判断するという市民社会の成熟に大きく貢献するものであり、東大病院新入院棟の開設に寄せる学内外の期待は極めて大きい」と挨拶を述べた。

この後、参議院議員（元文相、元総長）有馬朗人氏、文部科学省大臣官房文教施設部長小田島章氏、東京医科歯科大学医学部附属病院長西岡清氏から祝辞をいただき、柳澤昌俊施設部長の工事概要、加藤病院長による関係業者等への感謝状贈呈の後、閉式した。

式典の後、入院棟見学に移り、15階レストランからの上野の森、不忍池の近景や開かれた眺望、14階南側特別室（1病室内に4部屋116m²）、4階HCU/ICUなど高度医療提供病室の棟内見学となった。

祝賀会は、遠山敦子文部科学大臣を迎え、幕内雅敏教授（外科診療部門長）との診療エピソードを交えた祝辞をいただき、出席者一同が大臣の温かさを感じた感動の時間を共有した。引き続き、日本医学会長（元総長・元医学部長）森亘氏、元病院長吉川政己氏から祝辞をいただき、医学系研究科長・医学部長桐野高明氏のご発声で乾杯した。

祝宴は、華やかで和やかに進み、前病院長武谷雄二の謝辞により閉会した。

寄せられた祝電は、日本医師会会長、日本看護協会会長を始め、各国公私大学長、病院長などで多くの方々からいただいた。

また、出席者は、式典及び祝賀会をあわせ、約600名となり、文部科学省からは結城大臣官房長、遠藤スポーツ・青少年局長、谷本大学病院指導室長、高杉スポーツ・青少年局企画・体育課長、杉野大学改革室大学改革官、文京区からは煙山文京区長、本郷消防署長、本富士警察署長、学内からは小間副学長、宮島副学長、廣渡総長特別補佐、坂本事務局長など多くの方々により終始盛会で、午後7時に終了した。



遠山敦子文部科学大臣を囲んで



有馬朗人参議院議員（元文相・元総長）



森亘日本医学会長（元総長・元医学部長）

（医学部附属病院）

工学系研究科附属量子相エレクトロニクス研究センターのシンポジウム・設立記念式典・祝賀会が開催される

去る9月26日（水）に工学部2号館にて、工学系研究科附属量子相エレクトロニクス研究センターのシンポジウム・設立記念式典・祝賀会が開催された。本学内外の産官学にわたる研究者等約100名の出席があった。量子相エレクトロニクス研究センターは科学研究費による中核的拠点形成プログラム「スピン—電荷—光結合系の相制御」という研究課題の成果を踏まえて、本年4月1日に設立されており、このたびその発足を記念してシンポジウムなどを開催したものである。

シンポジウムでは、五神真センター長による趣旨説明に続き、「光による強相関電子系の相制御：SCPプロジェクトの目標と成果」（宮野健次郎 先端科学技術研究センター教授、同センター教授併任）「量子ドットの近藤効果とスピン相関」（樽茶清吾 大学院理学系研究科教授）、「電子集団の拓く新機能—強相関エレクトロニクスへの途」（十倉好紀 大学院工学系研究科教授）の3名の講演があった。

記念式典では、同センターの白木靖寛教授の開式の辞、五神真センター長の式辞に続き廣渡清吾総長特別補佐から挨拶があり、同センターが東京大学において、理学工学あるいは産学といった旧来の枠を越えた研究教育を推進する新しいセンターのモデルとして大いに期待されていることが述べられた。続いて、来賓として、文部科学省研究振興局坂田東一審議官から、同センターが発展し、わが国の科学技術の基盤強化に一層貢献することを期待する旨の祝辞があった。また国立情報学研究所末松安晴所長から、これまでのプロジェクトの成果をもとに新しいエレクトロニクス構築という大きな目標に向かった発展を期待するとの祝辞があった。

シンポジウム・設立記念式典の後に工学部2号館において祝賀会が行われた。祝賀会では工学系研究科を代表して大垣眞一郎評議員の挨拶に続き、独立行政法人物質・材料研究機構の岸 輝雄理事長より祝辞を頂いた。センターの設立に尽力された学内外の100余名にも及ぶ



祝辞を述べる文部科学省研究振興局坂田審議官

方々と共に、センター設立を祝い、盛会のうちに閉会した。

量子相エレクトロニクス研究センターでは多数の電子が強く相互作用している系が示す多彩な量子力学的物質相がもつ潜在力に着目し、その相を制御するための学理を明らかにする研究を進めながら、それを利用した工学を構築することを目指している。センターではアジャクトメンバー制度を設け学内外、理学工学産学の広い分野の研究者の連携をはかる。今後もこうしたシンポジウムや国際会議を継続して開催する予定である。



祝賀会で祝辞を述べる独立行政法人物質・
材料研究機構 岸理事長



式辞を述べる五神量子相エレクトロニクス
研究センター長



挨拶する廣渡総長特別補佐
(大学院工学系研究科・工学部)

新領域創成科学研究科で平成13年度9月期学位記授与式・平成13年度10月期入学式挙行される

新領域創成科学研究科では、平成11年4月に初めて修士課程学生の受入れを開始し、平成13年3月第1期修士課程修了者を228名輩出し、安田講堂において学位授与式を挙行了。また、平成13年4月からは、博士課程学生受入れを開始し、同様に安田講堂において入学式を挙行了。

さらに新領域創成科学研究科では、学内でも稀な年度途中の学位記授与式(平成13年度9月期)を9月28日(金)に、また、入学式(平成13年度10月期)を10月1日(月)に理学部旧1号館2階250号講義室において挙行了。

共に佐々木(岳)助教授の進行により行なわれ、三浦学務課長開式挨拶、河野通方研究科長式辞のほか、渡邊公綱評議員、鳥海光弘基盤科学研究系長、片岡宏志先端生命科学系長、磯部雅彦環境学研究系長、月橋物質系専攻長ら教職員多数出席の下、3系長から各々祝辞が述べられた。

学位記授与式は、河野研究科長から修士課程修了者7名に対し直接学位記が授与され、また、入学式は修士課程26名及び博士課程5名の入進学者に対し行なわれた。

河野研究科長の学位記授与式・入学式式辞は、新領域創成科学研究科ホームページ(<http://www.k.u-tokyo.ac.jp/j/index.html>)に全文掲載されていますので、ご覧下さい。



学位記授与式終了後記念撮影



河野研究科長から修了者へ学位記授与

2001年度留学生センター日本語教育集中コース・特別コース（夏学期）（第32期生）の修了証授与式行われる

留学生センターでは、本年4月から本年度夏学期を開講していたが、このほど、全日程を終了し、9月28日（金）15時30分から、附属図書館3階会議室において、49名の修了者に対する修了証授与式が行われた。

式には、佐々木総長、廣渡総長特別補佐、坂本事務局長のほか、関係教官も列席、小島センター長挨拶に続いて修了者ひとりひとりに小島センター長から修了証が手渡されたあと、佐々木総長から祝辞が述べられた。総長は、外国で生活すること、新たな外国語を学習することに伴う苦労をねぎらったあと、「本日修了証を手にした皆さんに、いつの日か今度は私から証書を手渡せる機会

があればうれしいことだ。」と述べ、このあと本格的に専門の研究にいそんだり、大学院進学を目指したりする修了者を励ました。

ついで、留学生センター市川教授の講評のあと、各クラスの代表者が日本語でスピーチを行い、これまでの苦労や失敗がユーモラスに語られたりして、盛んな拍手を浴びるひとコマなどもあり、和やかな雰囲気うちに式は終了した。引き続き山上会館にところを移して、修了者を囲んでの懇談会が開かれ、修了者による寸劇なども披露されて大いに盛り上がり、時の経過も忘れるほどではあったが、やがて刻限となり、一同別れを惜しみつつ、散会した。

なお、今期の修了者49名の所属は以下の11研究科、出身は以下の24の国・地域である。

| 研究科名 | 人数 | 国・地域別名 | 人数 | 国・地域別名 | 人数 |
|------------|-----|---------|----|----------|----|
| 法学政治学研究科 | 2名 | 韓国 | 4名 | イスラエル | 1名 |
| 医学系研究科 | 5名 | 台湾 | 2名 | トルコ | 3名 |
| 工学系研究科 | 11名 | 中国 | 2名 | イタリア | 2名 |
| 人文社会系研究科 | 8名 | モンゴル | 1名 | スペイン | 1名 |
| 理学系研究科 | 5名 | フィリピン | 4名 | イギリス | 1名 |
| 農学生命科学研究科 | 4名 | ベトナム | 3名 | ハンガリー | 1名 |
| 経済学研究科 | 2名 | シンガポール | 1名 | カナダ | 2名 |
| 総合文化研究科 | 2名 | マレーシア | 1名 | アメリカ合衆国 | 3名 |
| 教育学研究科 | 1名 | タイ | 8名 | メキシコ | 1名 |
| 新領域創成科学研究科 | 6名 | バングラデシュ | 1名 | チリ | 1名 |
| 情報理工学系研究科 | 3名 | パキスタン | 2名 | オーストラリア | 2名 |
| | | イラン | 1名 | ニュージーランド | 1名 |





クラス1代表

ガブリエル パブロ ナバ

Gabriel PABLO NAVA

(工学系研究科、メキシコ)

皆さんこんにちは。私は、メキシコのガブリエルと申します。日本へ来る前に日本語を1か月間勉強しました。この時間にひらがなやカタカナや少し基本的な文法を習いましたが、日本へ来たとき日本語がぜんぜん分かりませんでした。それからメキシコの友達の言ったことを思い出しました。

「心配しないでください・・・。日本語は難しいですから、ガブリエルさんは日本人の日本語はぜんぜん分かりません。」

でも、そのとき違う友達の言ったことも思い出しました。

「心配しないでください・・・。日本語をよく勉強したら、そして毎日日本語を使ったら、早く上手になります。」

この2人のうち正しい人はどちらですか。!!!

両方の友達が正しいと思います・・・。

それから、留学生センターで日本語の授業が始まりました。クラス1で日本語の勉強をするのは楽しかったです。私の気持ちは話すことを習っている子供の気持ちと同じでした。授業は楽しかったですが大変でした。毎日たくさん勉強がありました。

日本語を勉強するのに漢字がぜんぜん上手になっていないと思います。日本語を話したいのですが、話そうとすると、忘れてしまいます。こわい感じです。!!!

例えば、夏休みにいしかわけんへ行きました。ホームステイをしました。ホストファミリーのうちにはかわいい犬がいました。ある日、犬と遊びたかったです。日本人のうちの犬なので、犬に日本語で話しました。でも、犬は私の日本語を聞くと部屋を出ました・・・。えええ!!!

日本語がほんとうに下手だと思いました。犬には私の日本語がぜんぜん分かりませんでしたから友達は私のことをわらっていました。

でも、次の日にお父さんは犬が1年半前から耳が聞こえないと言いました・・・。そのあとで、日本語につい



て心配ませんでした。大丈夫でした。留学生センターでは学生たちと先生はいろいろないい経験をしました・・・。でも、万事は終わりがあります。そして、今日は日本語の授業を終わります。

私たち、クラス1の学生は教えてくださった先生と留学生センターのスタッフに、ほんとうに感謝しています。そして学生の皆さん、がんばってください!!!またあいましょう。

どうもありがとうございました。

クラス1-S代表

トボン クマール パール

Topon Kumar PAUL

(新領域創成科学研究科、バングラデシュ)

私はトボンと申します。東京大学でコンピュータ工学を勉強するために、今年4月にバングラデシュから日本に参りました。きょうは、1-Sクラスのだいひょうとして、スピーチできて幸せです。

私は4月5日に日本に来ました。外国に来るのは初めてだったので、旅行はおもしろかったのですが、たいへんでした。国で2か月ぐらい日本語を勉強させてもらいました。でも上手に日本語が話せませんでした。駒場留学生会館に来たときは、とてもさびしかったです。あとで国の友達に会い、家族に電話できてうれしかったです。

4月7日に研究室で先生に初めてお目にかかりました。先生はやさしくてまじめです。先生は何でもくわしく説明してくれました。私は日本語を早くならいたいと思いました。そのあとで私の1-Sクラスが始まりました。このクラスでは、中国、韓国、イラン、イタリア、フィリピンから来た学生にいました。全部で7人の学生がいました。みんな若くて、やさしい人たちです。先生はみんなにやさしくていねいに日本語を教えてくれました。毎日、先生はいろいろな方法を使って教えてくださいました。日本の文化をまなぶとき、日本語をならったほうがいいと思います。日本語が上手になるために、毎日テレビを見たり、電車で漢字を読んでいます。

世界のなかでも、日本はとてもきれいな国です。私は日本で一番高くてきれいな富士山にのほりたいです。日本人はまじめでいつでもやくそくの時間に間にあいます。



私もみならいたいと思ってます。しかし東京は住みにくいまちです。ぶっかはとても高いし、いつでもこんでいます。でも、日本は電車が多くて、交通が便利です。

さいごに世界の平和をいのります。これでスピーチをおわります。みなさん、おつかれさまでした。どうもありがとうございます。

クラス2代表

プリン アヌチキティクン
Burin ANUCHITKITTIKUL

(情報理工学系研究科、タイ)

皆さん、こんにちは。タイのプリンと申します。留学生センターのクラス2の学生です。皆さんは、世界で一番長い都市の名前をご存じですか。それは

กรุงเทพมหานคร บวรรัตนโกสินทร์ มหินทรายุธยา มหาดิลกภพ นพรัตนราชธานีบรมมยุฎถราชินิเวศน์มหาสถาน

อนรพินานอวตารสถิต สักกะหัตถดิยวิษณุกรรมประสิทธิ์

(グルンテープマハーナホンバオンラッタナゴーン・マヒンタラーアユタヤ・マハリロポ・ノパララーチャターニブリロン・ウロンラーチャニウェーマハーサタン・アモーピマンアワダーンサティ・サッカタディアウィツァヌガンバン)

という名前です。実は、これは私の国の首都、バンコクの古い名前です。

私は今、一生懸命日本語を勉強していますが、まだ上手ではありません。ですから、今まで、おもしろい失敗がたくさんあります。

例えば、日本へ来て、1か月目に食堂へ食事をしに行きました。レジでお金を払おうとしたら、レジの人に「現金ですか？」と聞かれたのですが、私は「おかげさまで元気です」と答えてしまいました。その時、私は、日本人はあたたかい人たちだなあと感動していましたが、レジの人はとつぜん笑って、「元気じゃなくて現金ですよ」と言いました。その時はぜんぜんわかりませんでした。後で辞書を調べて、現金というのは“cash”のことだということがわかって、たいへん恥ずかしかったです。

さて、クラス2には、留学生が11人いました。クラス



では、時々、意見をたたかわせることもありますが、仲良く勉強していました。

マレーシアのタンさんは、タイ語に関心がありました。ですから、ナツツさん、ピャオさん、プミさんと私のタイ人は、彼にタイ語を教えて、毎日単語をチェックしました。たぶん、今彼はタイ語が日本語よりも上手になってしまったんじゃないかと思います。

トルコのチャールさんは、いつも「先生」と言おうとすると「賛成」になってしまって、困っていました。日本語は母国語ではないので、ほんとうに難しいですね。「先生、賛成ですか」

オーストラリアのグラントさんとイスラエルのシャミラさんはベジタリアンで、教室でにんじんやきゅうりをおいしそうによく食べていました。最近、日本でも狂牛病の問題があるので、ほくもベジタリアンになったほうがいいかなあと考えています。

授業のほかに、みんなで集まることもよくありました。一度、みんなで一緒にカラオケへ行って、歌ったり踊ったりしました。しかし、ハンガリーのアーギさんだけは、踊っただけで歌いませんでした。私たちは何回も彼女に歌わせようとしたのですが、彼女は歌ってくれませんでした。今度はぜひアーギさんに歌ってもらいたいと思っています。

さらに、ベトナムのファムさんとビンさんは、料理が上手で、一度ベトナムのパーティをやりました。すごく楽しかったです。私はベトナムの料理を初めて食べましたが、おいしかったです。

このような友達と一緒に勉強できて楽しかったので、できれば、一般コースでもまた一緒に勉強したいと思っています。

最後に、クラス2を教えてくださいました先生がた、長い間ありがとうございました。また、事務のかたにもお世話になりました。クラス2のみんなからおれいを申し上げます。私たちはこれからも日本語をいっしょうけんめい頑張ります。

ほんとうにありがとうございました。

クラス3代表

アリーン チャルムチャイキット

Aleen CHALERMCHAIKIT

(人文社会系研究科、タイ)

皆さん、こんにちは。私はタイのアリーンと申します。今日、私たちは留学生センターの夏コースの修了式を迎えました。今年の4月から勉強を始めましたが、この6か月の間には面白いことがたくさんあり、本当にすばらしい思い出になりました。

クラス3のメンバーは最初は7人でしたが、一人が専門の研究のためにやめて、6人の学生が残りしました。その6人はアメリカ、ブラジル、ニュージーランド、スペイン、そして二人のタイの学生です。

クラス3の授業では各課の最後に学生のプレゼンテーションがありました。このプレゼンテーションを通して、友達の国の歴史やスポーツや料理や年中行事などがわかってきました。

また、専門について、大きな発表会がありました。先生は皆に専門のスピーチを覚えさせました。そのときはご飯を食べたくないほど難しかったけれども、とてもいい練習になりました。

皆の専門の、遺伝子、経済、工学、マスコミ、国際関係、そして、生物学の珍しい鳥のことが少しわかりました。

最後ぐらいの日に「このクラスは他のクラスとどう違いますか」と先生に聞いたとき、一人の先生は「このクラスは雰囲気が楽しい、個性的なクラスです。皆の性格や習慣や考え方が違って、日本ではこういうクラスは珍しいです」と答えて下さいました。そのとき、一人の友達が「そうですね、このクラスにはぎやかでサーカスみたいね。」と付け加えました。

また、もう一人の先生は遠慮なく「このクラスはとても遅刻が多い、休みが多い、それはざんねんです。」と言われました。

本当のことを言うと、私たちは遅刻が多いクラスでした。でも、それには時々理由がありました。

最初の1週目、マリアさんとファビオさんは11時ごろに大学に来ました。二人は祖師谷に住んでいるので、大学までは時間がかかります。

その上、マリアさんとファビオさんは電車を乗り換えるとき、つい反対側へ行ってしまいました。二人は電車の中でどうしてもまだ着かないのかなと迷っていて、結局、反対電車の終点まで行ってしまったそうです。

その話を聞いて、クラスでは日本の電車のアナウンスのことが話題になりました。なぜ電車のアナウンサーはあんな不自然な声で話すのでしょうか。二人が遅れたのは、アナウンスの声が悪くて、まだ慣れていないので聞き取れなかったからではないでしょうか。

また、台風15号もきました。私達にとって台風ははじめての経験でした。学校に着いたとき、皆はべとべとに濡れて、でも、信じられないことですが、皆頑張って授業に来ました。でも、やはり、大勢のメンバーが遅刻し



ました。

また、アメリカのテロの爆発の事件もありました。ジャスティンさんの家族はニューヨークに住んでいますから、私たちもかなり心配していました。ご家族は大丈夫でしたが、ジャスティンさんはテロ事件の次の日は大学へ来ませんでした。ジャスティンさんだけでなくほかの学生も何人か休みました。

専門の試験の準備やレポートの宿題などがあって、夜遅くまで勉強していることが多かったです。すると、次の日はどうしても遅刻してしまいました。

でも、これからは授業に遅れないように気をつけますので、どうぞ、許してください。

先生方は日本語だけでなく、学生の生活やさまざまな問題について相談にのってくださったし、友達のように接してくださいました。また、ボランティアの人たちが日本語を教えて下さったり、七夕祭りパーティなどをしてくださいました。相談室、そして事務室のみなさんもととても親切で、留学生センターは、私達にとって、家族のような一番暖かいところでした。短い期間でしたが、留学生センターの思い出はいつまでも私達の心に残ることでしょう。

どうもありがとうございました。

クラス4代表

クレア ルイース ラドクリフ

Claire Louise RADCLIFFE

(新領域創成科学研究科、イギリス)

皆さん、今日は。私はクラス4のクレア・ラドクリフと申します。イギリスからまいりました。19歳まで趣味で柔道をやったことをきっかけに日本に興味を持つようになり、イギリスの大学で日本語の勉強をはじめました。今、新領域創成科学研究科の環境システム学を専攻しております。

私のスピーチでは、クラス4について自分の意見と感想を述べたいと思います。クラス4は今学期、先生が5人、学生は最初10人でしたが途中で2人いなくなりました。クラス4の学生は色々な分野から集まった、さまざまな特徴を持っている人たちでした。例えば、さすがイタリア人らしくにぎやかなダビさん、北海道テレ



ビの温泉の番組に出演したポールさん、物静かでシャイなライスさんなどでした。

クラス4では15週間の間に私たちは菊地先生、大島先生と太田先生のレッスンで新聞記事を読みながら日本語の文法や漢字を勉強し、日本語の読解力が大変進歩したと思います。でも電子辞書なしで漢字を書くのはまだまだです。新聞記事を読む他に増田先生と作文を書く練習をしたり、栖原先生と相撲を見に行ったり、楽しく日本語と日本の文化を勉強することが出来ました。やさしく教えてくださった先生がたに大変感謝しております。

クラス4で一番印象に残っていることは皆が三つのグループにわかれて夏休みの間に研究したプロジェクトです。この三つのグループは研究テーマを自由に決めて仮説を立て、日本人と外国人にアンケートをしました。一つのテーマは「日本社会とホームレスの関係に関する研究」でした。このグループは毎週渋谷にある「のじれん」という団体を訪問して、ホームレスの人たちと仲間になり、色々な話をしました。もう一つのテーマは「環境問題に関する研究」でした。このグループはダイオキシンの危険性についてのアンケートを作り、理系の人と一般の人の知識の差を調べました。最後のテーマは「日本での犯罪に関する研究」でした。もう少し詳しく言うと、日本社会を最も脅かすものは何か、そして最近の犯罪増加の原因は何か、についての研究でした。この三つの研究の結果をもっと詳しく知りたい方がいらっしゃったらぜひ私たちの研究レポートをご覧ください。

この活動を通じて教室で勉強する日本語とは違った日本語にふれることができ、色々なテーマで日本人の考え方を知ることが出来たととてもいい経験になったと思います。研究レポートの書き方を教えてくださった宮田先生、どうもありがとうございました。それから、日本人がまったくいない留学生会館に住んでいる学生たちにとって相談室の先生がたが担当しているボランティアプログラムは本当に役に立つと思います。相談室と事務室の皆さん色々ありがとうございました。

日本語コースの学生たちは、これからそれぞれ違った道に進むと思いますが、日本語の勉強を忘れずに、自分の目標を達成することが出来るように頑張りましょう。さあ、皆さんおながパコペコだと思えますのでだれも

たおれないうちにパーティを早くはじめましょう。

どうもありがとうございました。

特別コース代表

ボロルマー マグサルジャブ

Bolormaa MAGSARJAV

(教育学研究科、モンゴル)

皆さん、こんにちは。私はモンゴルから参りました特別コースのボロルマーと申します。今年の4月から東京大学の教育学研究科の研究生として勉強しております。4月から特別コースで日本語の勉強をしてきましたので今日はこのコースについての感想を聞いていただきたいと思えます。

今年の夏学期の特別コースをご指導くださった先生方は市川先生、菊地先生、大島先生、前田先生でした。

特別コースは読む練習と書く練習の2つに分かれていて、高度の読解能力と書く能力を身につけるための練習をしました。

読む練習の授業では日本の文学作品や日本語の新聞記事を読みました。新聞記事のテーマは主に日本の現代社会に関するもので、例えば、「社員3000人にFA資格」、「若年層の失業問題こそ深刻」、「ペット」、「『飛び入学』は是か非か」などといったものがありました。これらを通じて、現代日本社会に関して話すのに必要な用語と概念を習得するとともに、現代社会のいろいろな側面をよりよく理解できるようになりました。特に、『『飛び入学』は是か非か』という記事を読んだことは日本の教育に興味を持っている私にとって、専門的な知識を深めるのに役立ったと思えます。また、この記事を読んだ後の討論は、他の国の教育について聞くよい機会にもなりました。

その他、市川先生の授業で最後の30分に自分たちの国の紹介をしたことは、異なった国々と異なった文化からきた私たちにとって、他の国についての知識を高めるよい機会になったと思えます。

書く練習の授業では、フォーマルな手紙を書く練習、文章を要約する練習、レポートを書く練習、エッセイを書く練習などをして日本語の文体や敬語を教えてくださいました。もともと表音文字を使ってきた私たちモンゴル人にとって、日本語の難しいところは漢字です。しかし、漢字以外の難しいところといえば、敬語です。日本語の勉強を始めたときから敬語の使い方に迷って、目上の日本人から注意されたこともありますので、敬語を使うときいつも緊張してきました。でも、日本に来てから、日本の若い人も敬語の使い方をよく間違えることが分かって、少し安心しました。フォーマルな手紙を書く練習をしたため、指導教官など目上の人に手紙を書くときにどんな表現を使ったらいいか、知らない人に対してどんな言葉を使ったらいいかなどについて高度の能力を身につけることができました。

文章を要約する練習では、記事を読んだ後、そこに述べられた主な内容を簡潔にまとめて書きました。その結



果、日本語の記事を読んで、文章にまとめることができるようになり、また、記事について自分の感想が述べられるようになりました。その他、私たちの提出した文章を先生が読んでくださって、授業中にその間違いを私たちと話し合いながら直してくださったので、自分の間違いだけではなく、他の学生の間違いからも学ぶことができました。

最後になりましたが、特別コースの皆さんを代表して、私たちの日本語の勉強をご指導くださった留学生センターの先生方に心から感謝の気持ちを申し上げます。私たちはコースが終わっても、日本語の勉強をずっと続けていきますので、これらかもどうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

空間情報科学研究センター第4回シンポジウムが開催される

空間情報科学研究センター主催のシンポジウムが、9月26日(水)、山上会館の大会議室において午前10時より、午後5時まで行われ、学内、他大学、各種研究機関、民間企業より約100名の参加があった。今年度は「21世紀を迎えた空間情報科学」というタイトルのもと、第1部では、センター教官の1年間の研究成果が発表され、第2部は、招待講演が行われた。

研究成果発表は岡部篤行センター長の挨拶の後、研究部門ごとに行われ、空間情報解析研究部門では、浅見泰司教授により不動産評価法が、朴成元研究機関研究員により介護サービスシステムが、杉盛啓明助手により流出解析法が発表された。空間情報システム部門では、柴崎亮介教授により3次元空間情報を取得するステレオトリプレット法、車載空間情報収集法(図「テクスチャー付サーフェスモデルの生成」参照)、擬似3次元シークエンス空間情報構築法が、瀬崎薫助教授により無線ネットワークとGISの結合によるシームレスな位置情報取得法が発表された。瀬崎助教授の発表は、ワールドトレードセンターの崩壊で壊れたネットワークをいかに早急に回復するかというホットな話題と関連し、聴衆の大きな関心を集めていた。時空間社会経済システム研究部門では、城所幸弘助教授により混雑の少ない都市鉄道通勤を実現



講演風景

する規制政策が、来間玲二研究機関研究員によりセンターで整備した統計データベースが、八田達夫教授により東京のオフィス集積の利益を推定する方法が、丸山祐造助教授により小地域の統計的推定法が発表された。

研究部門の発表に加え、センターが空間情報科学の研究を支援するシステムについての紹介があった。高橋昭子氏によりGIS入門編や質問に答えてくれる「てくてくGIS」が、来間玲二研究機関研究員により統計データとGISデータをドッキングして利用する方法が、相良毅助手により住所を緯度経度に自動変換してくれる「csvアドレスマッチングサービス」の利用法と空間情報科学の研究ポータルサイト「GISSchool」が説明された。これらの研究サービスは、以下のサイトでだれでも利用できることが紹介された。

てくてくGIS <http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/~akuri/>
 csvアドレスマッチング <http://fujieda.csis.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/geocode.cgi>

GISSchool <http://gisschool.csis.u-tokyo.ac.jp/>
 クリアリングハウス <http://chouse.csis.u-tokyo.ac.jp/>

第2部は、最近注目を浴びている個人情報保護案について、内閣官房個人情報保護担当室長補佐の清水幹治氏のご講演をいただいた。地理情報は個人情報が多く含まれるので、聴衆からは、直面している問題について多くの質問があり、この問題の現代的重要性がうかがわれた。

このあと懇談会が開かれ、シンポジウムの研究内容についての熱心な討論が続き、シンポジウムは午後7時に終了した。

(空間情報科学研究センター)

≡ 掲示板 ≡

東京大学ハラスメント相談所の相談体制の変更について

本学では、セクシュアル・ハラスメントの防止と被害者の救済を担当する全学的組織として東京大学ハラスメント防止委員会を設置し、防止体制の整備を進め、本年3月21日に東京大学ハラスメント相談所本郷キャンパス相談室を4月2日に駒場キャンパス相談室を開設いたしました。

開設以来、諸般の都合で駒場キャンパス相談室への相談員の派遣が出来ず、駒場地区の方々にはご迷惑をおかけいたしました。本年10月1日(月)より下記のとおり相談員が在室し、相談業務にあたることとなりましたのでお知らせします。

したがって、今後のハラスメント相談所本郷・駒場両キャンパス相談室の相談業務は下記のとおりとなりますのでご了承ください。

1. 本郷キャンパス相談室

場 所 安田講堂3階(保健センター側入口を利用)
開室時間 月～金曜日(祝日を除く)10:00～17:00

連絡先 TEL:5841-2233 (内線22233)
FAX:5841-2400
e-mail:soudan@har.u-tokyo.ac.jp
(ハラスメント相談所共通)

2. 駒場キャンパス相談室

場 所 教養学部図書館4階411号室
開室時間 月・水・金 10:00～17:00
火・木については電話・ファックスを本郷キャンパス相談室に転送して受付を行います。また、予約により相談員を派遣することが出来ます。

連絡先 TEL:5454-6159 (内線46159)
FAX:5454-6159
(ハラスメント相談所)

平成14(2002)年度工学系研究科大学院入学試験結果について

工学系研究科では、平成14(2002)年度大学院入学試験を平成13年9月3日(月)から7日(金)の間実施し、9月21日(金)合格者を発表した。志願者数・合格者数は、下表のとおり。

平成14(2002)年度工学系研究科修士課程入学志願者数・合格者数

| | 受入予定人員 | 志願者数 | | | 合格者数 | | |
|------------|--------|------|-----|-------|------|-----|-----|
| | | 本学 | 他大学 | 計 | 本学 | 他大学 | 計 |
| 社会基盤工学専攻 | 59 | 49 | 55 | 104 | 46 | 16 | 62 |
| 建築学専攻 | 58 | 49 | 147 | 196 | 33 | 38 | 71 |
| 都市工学専攻 | 31 | 42 | 25 | 67 | 28 | 6 | 34 |
| 機械工学専攻 | 71 | 98 | 107 | 205 | 35 | 12 | 47 |
| 産業機械工学専攻 | | | | | 25 | 9 | 34 |
| 精密機械工学専攻 | 33 | 51 | 40 | 91 | 28 | 7 | 35 |
| 環境海洋工学専攻 | 31 | 27 | 27 | 54 | 20 | 13 | 33 |
| 航空宇宙工学専攻 | 53 | 48 | 56 | 104 | 41 | 13 | 54 |
| 電気工学専攻 | 64 | 95 | 89 | 184 | 17 | 12 | 29 |
| 電子工学専攻 | | | | | 29 | 14 | 43 |
| 物理工学専攻 | 49 | 46 | 51 | 97 | 31 | 20 | 51 |
| システム量子工学専攻 | 38 | 18 | 78 | 96 | 12 | 33 | 45 |
| 地球システム工学専攻 | 24 | 19 | 11 | 30 | 18 | 3 | 21 |
| 金属工学専攻 | 56 | 46 | 68 | 114 | 15 | 9 | 24 |
| 材料学専攻 | | | | | 22 | 13 | 35 |
| 応用化学専攻 | 43 | 52 | 77 | 129 | 32 | 17 | 49 |
| 化学システム工学専攻 | 38 | 41 | 41 | 82 | 36 | 2 | 38 |
| 化学生命工学専攻 | 46 | 47 | 86 | 133 | 32 | 16 | 48 |
| 超伝導工学専攻 | 10 | 0 | 0 | 0 | 8 | 2 | 10 |
| 計 | 704 | 728 | 958 | 1,686 | 508 | 255 | 763 |

注) 超伝導工学専攻合格者数には、他専攻からの振替者を含む。

平成14（2002）年度工学系研究科博士課程入学志願者数・合格者数

| | 受入予定人員 | 志願者数 | | | 合格者数 | | |
|------------|--------|------|-----|-----|------|-----|-----|
| | | 本学 | 他大学 | 計 | 本学 | 他大学 | 計 |
| 社会基盤工学専攻 | 29 | 15 | 11 | 26 | 15 | 4 | 19 |
| 建築学専攻 | 22 | 32 | 26 | 58 | 31 | 21 | 52 |
| 都市工学専攻 | 13 | 12 | 6 | 18 | 10 | 4 | 14 |
| 機械工学専攻 | 33 | 12 | 6 | 18 | 9 | 1 | 10 |
| 産業機械工学専攻 | | | | | 3 | 0 | 3 |
| 精密機械工学専攻 | 15 | 11 | 3 | 14 | 11 | 3 | 14 |
| 環境海洋工学専攻 | 16 | 6 | 7 | 13 | 6 | 6 | 12 |
| 航空宇宙工学専攻 | 25 | 12 | 3 | 15 | 11 | 1 | 12 |
| 電気工学専攻 | 32 | 21 | 7 | 28 | 9 | 2 | 11 |
| 電子工学専攻 | | | | | 11 | 2 | 13 |
| 物理工学専攻 | 24 | 12 | 0 | 12 | 12 | 0 | 12 |
| システム量子工学専攻 | 19 | 8 | 7 | 15 | 8 | 4 | 12 |
| 地球システム工学専攻 | 13 | 4 | 1 | 5 | 4 | 1 | 5 |
| 金属工学専攻 | 26 | 12 | 10 | 22 | 4 | 1 | 5 |
| 材料学専攻 | | | | | 6 | 3 | 9 |
| 応用化学専攻 | 16 | 8 | 1 | 9 | 8 | 0 | 8 |
| 化学システム工学専攻 | 17 | 8 | 3 | 11 | 8 | 1 | 9 |
| 化学生命工学専攻 | 18 | 9 | 5 | 14 | 9 | 4 | 13 |
| 超伝導工学専攻 | 5 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 先端学際工学専攻 | 59 | 10 | 27 | 37 | 7 | 13 | 20 |
| 計 | 382 | 193 | 123 | 316 | 183 | 71 | 254 |

大学院数理科学研究科修士課程の入試について

平成14年度大学院数理科学研究科修士課程の入学試験は、8月27日(月)、28日(火)に筆記試験、8月30日(木)、8月31日(金)に口述試験を実施し、9月10日(月)に合格者(入学許可内定者)を発表した。

なお、志願者数、合格者数は次のとおりである。

志願者数 132名(内外国人1名)
 (内本学出身51名、他大学出身81名)
 合格者数 (入学許可内定者数)
 45名(内外国人1名)
 (内本学出身30名、他大学出身15名)

(大学院数理科学研究科)

「教養学部報」第450(10月3日)号の発行 ——教官による、学生のための学内新聞——

太田 浩一：ザ・メイキング・オブ・『電磁気学』
 松村 剛：フランス学士院ランティエ賞を受賞して
 工藤 庸子：フランス語共通教材『パサージュ』

佐藤 良明：月までとどけ(?!)、英語 I
 跡見 順子：第9回 身体運動科学シンポジウム 脳と
 生命に働きかけるスポーツサイエンス

〈本の棚〉

森 政稔：内田隆三著『探偵小説の社会学』
 木畑 洋一：山脇直司・内田隆三・森政稔・米谷匡史編
 ライブラリ関連社会科学7『ネイションの
 軌跡——20世紀を考える (I)』

〈時に沿って〉

田尻 芳樹：法律か文学か
 青木誠志郎：焚 火
 松下未知雄：三つ子の魂

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、図書館入口、学生課ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

(大学院総合文化研究科・教養学部)

教養学部で第93回オルガン演奏会の開催 《リコーダーとチェンバロの輝き》

教養学部では、恒例のオルガン演奏会を次のとおり開

催いたします。このたびは、リコーダーの本村睦幸さんとチェンバロの上尾直毅さんをお迎えし、バロックの初期から盛期に至るイタリア、フランス、ドイツの作曲家の作品のかずかず秋宵のひとときをお楽しみいただきます。お二人ともスウェーリンク音楽院（アムステルダム）に学ばれ、それぞれアムステルダムとデン・ハーグを拠点に活躍なさってきましたが、今年春、本学の卒業生でもある本村さんは14年ぶりに、上尾さんは9年ぶりに日本に戻られ、新たな活動を精力的に開始されています。どうぞご期待ください。

入場は無料です。ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧下さい。

<http://platon.c.u-tokyo.ac.jp/>

日時 11月1日(木)午後6時30分開演

場所 数理科学研究科大講義室

曲目 D・カステッロ

ソナタ 第2番

G・フレスコバルディ

「トッカータとパルティータ 第1巻」より

バッサカリアによる100の変奏

T・トレットのグラウンド

A・コレッリ

ラ・フォリア (op.5-12)

A・フィリドール

ソナタ ニ短調

J・S・バッハ

トリオ 第3番 ニ短調 (BWV.527)

演奏 本村睦幸 (リコーダー)

上尾直毅 (チェンバロ)

(大学院総合文化研究科・教養学部)

平成13年3月に竣工しました。これに伴い同専攻の教職員及び学生等の移転準備を進めてきましたが、平成13年10月1日をもって、移転が完了しましたので、お知らせいたします。

なお、移転先住所及び電話番号等は下記のとおりです。

移転先住所 〒277-8562

千葉県柏市柏の葉5-1-5

電話番号 0471-36-3717

(事務室)ダイヤルイン

(大学院新領域創成科学研究科)

移転のお知らせ

本研究科では、柏キャンパスでの建物の整備を順次進めているところでありますが、この度その一部である先端生命科学専攻の教育研究の拠点となる生命棟の建物が



新領域生命棟

コンピューター・ネットワーク利用セミナーのお知らせ

情報基盤センターでは、コンピューター・ネットワーク利用セミナー（第22回）を以下のとおり開催します。本セミナーは、本学の教職員、学生等を対象とした講習会で、ATM遠隔講義・会議システムを利用し本郷キャンパスと駒場キャンパスの2個所で受講できるようにしています。参加ご希望の方は、

URL <http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/Seminar/>からお申し込みください。参加費用は無料です。

問い合わせ等 seminar@itc.u-tokyo.ac.jp

タイトル 秘書さんのためのデータベース検索講習

日時 10月25日（木）14：00-15：30

場所（本郷）情報基盤センター 4F遠隔講義室
（駒場）教養学部1号館 2F163号室

概要 研究の補助的業務をされている方を対象に、データベースや電子ジャーナルを使った効率的な文献調査の方法をデモンストレーションを交えながら分かりやすく説明します。

例えば

- ・先生から調査を依頼された文献がうまく探せない…
 - ・ImpactFactorの調査を頼まれたけど…
 - ・電子ジャーナルの使い方を知りたい…
- などについて、実例に即して解説します。
事務系職員や学生の方の参加もお待ちしています。

講師 情報基盤センター 学術情報リテラシー掛

備考 講師の説明は本郷側の会場にて行います。また、インターネットを介したライブ中継を予定しています。ライブ中継用URL等は当日 <http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/Seminar/> においてお知らせします。

なお、情報基盤センター学術情報リテラシー掛では、データベースの出前講習会も実施しています。ご希望の内容、日時で研究室まで伺いますので、お気軽にお問い合わせください。
（内線：22649、literacy@lib.u-tokyo.ac.jp）

（情報基盤センター）

東京大学AGS研究会研究課題の募集

東大、MIT、スイス連邦工科大学で進めてまいりましたAGS（人間地球圏の存続を求める三大学国際学術協力）の研究活動は本年より第二期を迎え、新たな大学の参加も働きかけるなどさらに積極的に共同研究の推進を図っています。本年新規にスウェーデンのChalmers工科大学の参画が具体化し、4大学間で学際的な共同研究を展開することになりましたが、東大としても引き続きこの研究活動を支援するために東京大学AGS研究会をさらに充実して推し進めたいと思います。

本研究会はこのたび新規プロジェクトを募集いたします。AGS全体として採択されるプロジェクトについては、現在プロジェクト提案をいただいているところですが、今回募集するのはこのAGS全体のプロジェクトに限定されず、MIT、スイス連邦工科大学、Chalmers工科大学との共同研究を意図した研究プロジェクトを幅広く受け付けます。因みに、現在約30件のプロジェクトが進行中であり、その概要の一部は<http://www.esc.u-tokyo.ac.jp/ags/index.html>に紹介されています。

応募ご希望の方は、<http://www.esc.u-tokyo.ac.jp/ags/newproject2001.html>を参照の上、来る11月16日（金）までに提案書をご提出願います。また、ご質問などおありの方のご連絡もお待ちいたしております。

<問い合わせ先：内線27937 浅尾（AGS事務局）；e-mail：asao@esc.u-tokyo.ac.jp>

≡ 事務連絡 ≡

人 事 異 動 (教 官)

| 発令年月日 | 氏 名 | 異動内容 (新官職) | 旧 (現) 官職等 |
|-----------|-------------------------|----------------------------------|---|
| 13. 10. 1 | WINKELMANN, Jörg | (退 職) 平成13年9月30日限り任期満了により退職した | 大学院数理科学研究科助教授 |
| 13. 9. 30 | 加 藤 賢 朗 | (辞 職) 辞 職 | 医学部助教授 |
| 13. 10. 1 | 市 川 昌 和 | (採 用) 大学院工学系研究科教授 | 技術研究組合オングストロームテクノロジー研究機構グループリーダー兼フィルドリーダー 兼副プロジェクトリーダー |
| 〃 | 王 守 常 | 大学院人文社会系研究科助教授 | 北京大学哲学系副教授 |
| 〃 | 村 尾 美 緒 | 大学院理学系研究科助教授 | 理化学研究所基礎科学特別研究員 |
| 〃 | 大 森 裕 浩 | 大学院経済学研究科助教授 | 東京都立大学経済学部教授 |
| 〃 | 篠 田 浩 一 | 大学院情報理工学系研究科助教授 | 日本電気株式会社コーポレート・マルチメディア研究所音声HI開発センター主任研究員 |
| 〃 | COFFIN, MILLARD FILMORE | 海洋研究所教授 | テキサス大学地球物理研究所上級研究員 |
| 13. 10. 1 | 朝比奈 昭 彦 | (昇 任) 大学院医学系研究科助教授 | 医学部講師 |
| 〃 | 石 井 孝 | 大学院工学系研究科助教授 | 大学院工学系研究科講師 |
| 〃 | 久 我 隆 弘 | 大学院総合文化研究科教授 | 大学院総合文化研究科助教授 |
| 〃 | 杉 田 英 明 | 大学院総合文化研究科教授 | 大学院総合文化研究科助教授 |
| 〃 | 汐 見 稔 幸 | 大学院教育学研究科教授 | 大学院教育学研究科助教授 |
| 〃 | 江里口 正 純 | 医科学研究所附属先端医療研究センター教授 | 医科学研究所附属病院助教授 |
| 〃 | 木 本 昌 秀 | 気候システム研究センター教授 | 気候システム研究センター助教授 |
| 13. 10. 1 | 保 立 和 夫 | (配 置 換) 大学院工学系研究科教授 | 大学院新領域創成科学研究科教授 |
| 13. 10. 1 | 加 藤 和 也 | (転 出) 京都大学大学院理学研究科教授 | 大学院数理科学研究科教授 |
| 〃 | 小 林 俊 行 | 京都大学数理解析研究所助教授 | 大学院数理科学研究科助教授 |
| 〃 | 阿久津 達 也 | 京都大学化学研究所附属バイオインフォマティクスセンター教授 | 医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター助教授 |
| 13. 10. 1 | 田 中 伸 一 | (転 任) 大学院総合文化研究科助教授 | 名古屋大学言語文化部助教授 |
| 13. 9. 30 | 相 田 義 明 | (併 任 解 除) 先端科学技術研究センター教授 | 経済産業省審判部審判官 |
| 13. 9. 16 | 加 藤 敏 春 | (併 任) 大学院総合文化研究科教授 | 経済産業省関東経済産業局総務企画部長 |
| 13. 10. 1 | 岩 井 克 人 | 大学院経済学研究科長・経済学部長 | 大学院経済学研究科教授 |
| 〃 | 柏 木 隆 雄 | 大学院総合文化研究科教授 | 大阪大学大学院文学研究科教授 |
| 〃 | 齋 藤 希 史 | 大学院総合文化研究科助教授 | 国文学研究資料館文献資料部助教授 |
| 〃 | 加 藤 和 也 | 大学院数理科学研究科教授 | 京都大学大学院理学研究科教授 |
| 〃 | 小 林 俊 行 | 大学院数理科学研究科助教授 | 京都大学数理解析研究所助教授 |
| 〃 | 江 澤 潤 一 | 物性研究所教授 | 東北大学大学院理学研究科教授 |
| 〃 | 野 尻 浩 之 | 物性研究所教授 | 岡山大学理学部教授 |
| 〃 | 細 谷 正 一 | 物性研究所助教授 | 山梨大学工学部附属無機合成研究施設助教授 |

| 発令年月日 | 氏名 | 異動内容(新官職) | 旧(現)官職等 |
|----------------|--------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 13. 10. 1 〃 | 水野清義 山本正幸 | 物性研究所助教授 遺伝子実験施設長 (命) | 九州大学大学院総合理工学研究院助教授 大学院理学系研究科教授 |
| 13. 10. 1 | 鈴木和夫 | 大学院農学生命科学研究科附属演習林田無 試験地主任 (免) | 大学院農学生命科学研究科教授 |
| 13. 10. 1 | 丹下健 | 大学院農学生命科学研究科附属演習林田無 試験地主任 | 大学院農学生命科学研究科附属演習林教授 |

人事異動(職員)

| 発令年月日 | 氏名 | 異動内容(新官職) | 旧(現)官職等 |
|-----------|-------|-------------------------------------|-------------------------------|
| 13. 9. 30 | 鳥飼繁 | 辞職 | 学生部長 |
| 13. 10. 1 | 坂口裕 | 学生部長 | 生涯学習政策局付(放送大学学園教務部教務課長) |
| 〃 | 鈴木敏人 | 経理部主計課専門職員(監査担当) 経理部主計課監査第一掛長(併) | 経理部主計課監査第一掛長 |
| 〃 | 廣瀬一郎 | 医学部附属病院管理課専門職員 (経営分析担当) | 医学部附属病院医事課医事掛長 |
| 〃 | 石橋格司 | 施設部建築課工営第二掛長 | 高エネルギー加速器研究機構施設部建築課工営第二係長 |
| 〃 | 鹿嶋正則 | 施設部機械設備課機械第一掛長 | 施設部機械設備課機械第二掛長 |
| 〃 | 永島政則 | 施設部機械設備課機械第二掛長 | 施設部機械設備課機械第三掛長 |
| 〃 | 斉藤道孝 | 施設部機械設備課機械第三掛長 | 施設部機械設備課機械第四掛長 |
| 〃 | 久佐野裕康 | 施設部機械設備課機械第四掛長 | 筑波大学施設部環境保全課第一機械管理係 機械主任 |
| 〃 | 佐納悠司 | 研究協力部留学生課留学生第一掛長 | 地震研究所経理掛長 |
| 〃 | 市川安人 | 医学部附属病院医事課医事掛長 | 医学部附属病院医療サービス課専門職員 |
| 〃 | 林美郷 | 医学部附属病院医療サービス課専門職員 | 研究協力部留学生課留学生第一掛長 |
| 〃 | 林浩彦 | 地震研究所経理掛長 | 農学系経理課契約掛主任 |
| 〃 | 平澤敏之 | 柏地区庶務課共同利用掛長 | 医学部附属病院管理課研究協力掛主任 |
| 〃 | 金澤和久 | 東京農工大学施設課課長補佐 | 施設部建築課専門職員 施設部建築課工営第二掛長(併) |
| 〃 | 青木臣史 | 高エネルギー加速器研究機構施設部設備課 課長補佐 | 施設部機械設備課機械第一掛長 |
| 〃 | 寺田英雄 | (日本学術振興会総務部研究者養成課研究 者養成第二係長) | 経理部経理課出納第二掛主任 |

(備考)

平成13年10月1日付けで

・施設部建築課専門職員 金澤和久、施設部建築課工営第二掛長の併任を解除する。

私なりの東京大学像

昨年夏に旧通商産業省から東京大学に赴任する機会をいただいた。研究室は、総合図書館裏の建物の十階にあり、そこからの眺めはまことにすばらしい。研究室では、もっぱら安田講堂の時計で時刻を確かめている。研究室から見えるだけでも十分広いと感じるが、これで本郷キャンパスの半分である。

本郷以外にも、いくつものキャンパスがあることを思うと、学問の世界に疎い私は、それだけで、東京大学の大きさを実感するほどである。

さて、東京大学に赴任する直前は、中央省庁再編の準備もあって、日常の業務の中でも、「通産省のミッションは何か」を意識することが多かった。いわゆる官僚批判があるまでは、省内でもそれほど通産省の全体像が議論になることはなかったのではないかと思う。それだけに、ここ数年の省内の検討では、世代による考え方の違いもあって、百家争鳴でなかなかまとまらなかったように感じていた。それでも、若手の私でも自由に議論に参加できたことで、次第に私なりの通産省像のイメージを形づくるこ



とはできた。

東京大学で仕事をするという貴重な機会をいただいたので、私なりの「東京大学像」を形づくることができればとの勝手な思いをいただいている。今のところ、東京大学のことを知ろうとすればするほど、学問領域の広がり、百年以上続いている歴史、そして、数多い部局の多様性を実感するばかりで、とても自分なりの全体像を描くまでには至っていない。

学問の世界での積み重ねを十分経験していない私には、東京大学としての目標なり方向性がわかりやすい形で具体的に示されるとありがたい。そうすれば、大学全体の中における自分の位置づけをそれなりに考えることができると思う。大学は企業や省庁とは異なる組織とは思いますが、一般論として、構成員が多様化する組織では、わかりやすい形で共有できる目標を設定することは重要になると思うが、いかがなものだろうか。

折しも「東京大学憲章」のパブリック・コメントが募集されている。大学をとりまく環境が大きく変わる中で、このような検討が進められていくと思うが、それらを参考にしながら、私なりの東京大学像を考えていきたい。

(社会情報研究所 田中 秀幸)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

[次号の原稿締切]

10月17日(水)午後5時

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1222

2001年10月11日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>